

～第10回(平成22年度)学生生活実態調査報告書から検証～

兵教生と読書

学部生の
読書離れが進む

附 属図書館の利用頻度が前回調査(平成20年度)よりも低下しており、学部生は「月1、2回程度」と「ほとんど利用しない」で全体の3分の2を占めている。利用目的は「パソコンの利用」「図書館資料の利用」「自習場所として利用」の順で、図書館資料の利用以外の用途が増えている。

また、学部生の月平均の読書冊数は「読まない」と「1〜2冊」を合わせると84%に上る。若者の活字離れが叫ばれて久しいが、兵教生も例に漏れずといったところ。本の入手方法でも「買う」が48%で、「図書館で借りる」は14%にとどまり、図書館の利用頻度の低さを裏付ける結果となった。

また、学部生の月平均の読書冊数は「読まない」と「1〜2冊」を合わせると84%に上る。若者の活字離れが叫ばれて久しいが、兵教生も例に漏れずといったところ。本の入手方法でも「買う」が48%で、「図書館で借りる」は14%にとどまり、図書館の利用頻度の低さを裏付ける結果となった。

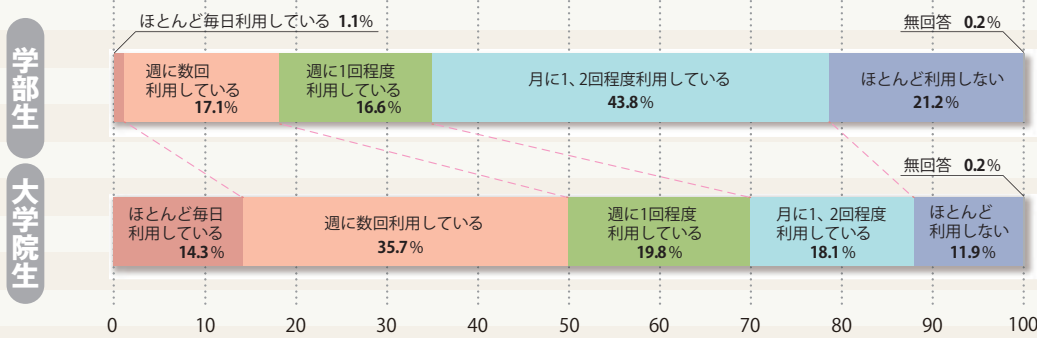
学生の「あの本が読みたい」という要望に応えるため、カウンターに「図書購入請求票」を置いてあります。一般に流通している本ならば取り寄せられるので、利用してください。数カ月ごとにテーマを変えて図書を紹介する「Bookギャラリー」も開催しています。本をたくさん読むことで教養が高まるのはもちろん、人生に大きな影響を与えてくれる一冊にも出会えます。附属図書館としても、皆さんの読書欲をそそぐ多彩な企画を考えていきます。

ふじ かわら かつ ひこ
藤原克彦
学術情報課課長補佐



附属
図書館から

附属図書館の利用頻度



読書の
味わい

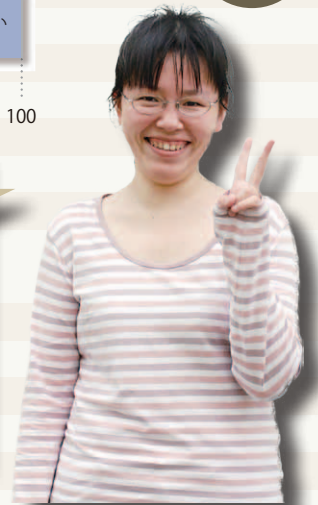
読書の
ススメ

私は小説など“文字だけ”の本が苦手でした。しかし、登場人物や風景を想像すると、話が何倍にも面白く、「これが小説を楽しむ醍醐味なのだ」と思いました。皆さんも、文字からいろいろなことを感じ想像し、物語を楽しんでください。

あさ の みな
浅野三奈さん
大学院修士課程
生活・健康・総合内容系コース2年



小学校の図書室に“本は心のゴハンです”と貼られていました。当時は、読書は心に感動や刺激を与えるという意味なのだろうと考えていました。最近、専門書とにらめっこの日々が続いていたので、気分転換に一冊の絵本を手に取りました。いなくなった父を思い続ける娘のストーリーで、2度、3度と読み返すうちに新たな気づきもありました。ゴハンとは感動したり、刺激を受けたりするだけでなく、じっくり味わうことで心の“栄養”になるのだと感じました。



たに かわあずさ
谷川梓さん
大学院修士課程
臨床心理学コース2年

1カ月の平均読書冊数(雑誌を除く)

